

ことばの力 からだの力 こころの力
園長室だより



城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和6年1月9日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園



「育つ」幼稚園
ホップ、ステップ、ジャンプ！



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

一学期は「ホップ」、新しい環境(園生活)にいかにして出会うかがポイント

になります。教師との信頼関係を基本にして、友達関係を広げたり深めたりしていきます。

二学期は「ステップ」、発達段階に応じて子どもの興味関心を引き出し、運動会や作品展などの大きな行事に取り組んでいきます。

そして、三学期は「ジャンプ」、飛躍のときを迎えます。二学期に味わった充実感や達成感から子どもたちは、自分自身の成長を実感し、自信をもって、新たな環境へとチャレンジしていきます。特に、年長児は以前の自分との違いを自覚しはじめ、自己変容に気付くようになります。「学びの自覚」が始まるのです。ここまで来たら、「小学校につながる学びの基礎」は磐石です。

2024 年は、甲(きのえ)の辰、変革、飛躍の年とも言われています。子どもたちと共に私たちが「ジャンプ」したいと思います。

さて、元旦から発生した石川県能登地方の地震ですが、今も余震が続き、皆さまもご心配のことと存じます。改めまして、犠牲者の方々には謹んでお悔やみ申し上げますとともに、余儀なく避難されておられる方々には、心からお見舞い申し上げます。自然災害を目の当たりにするたび、「どうする」と自分事として捉えておられることでしょう。いざに備えた不断の取り組みがより一層求められています。今一度、避難の準備等も含めて、見直していきます。

園では、避難訓練を計画的に実施しています。日頃から園生活で「見る力」「聴く力」の育成にも意図的に取り組んでいます。突然の園内放送にもすぐに遊びを止めて耳を傾ける子どもが育ってきています。12 月には、地震と津波を想定し、玄関ホールに一次避難し、さらに二次避難として 4 階アリーナまで階段で逃げる訓練をしました。もちろん 2 歳のたんぼぼ組も一緒です。避難完了は「4 分 5 秒」。子どもたちは真剣そのもので、中には途中で靴が脱げた子もいましたが、教師の声掛けに、後もどりすることなく、そのまま裸足で逃げきりました。



「いのちが一番！」これは子どもたちとの合言葉。自分のいのちを守る術を身に付けられるようにと願っています。

教育アンケート 速報！

貴重なお声をいただき、「育つ幼稚園」へ！



12 月実施の保護者対象の「教育アンケート」には、ご多忙の中、ご協力をいただきましてありがとうございました。

保護者の皆様には、まず何よりも安心してお子様をお預けいただける園でありたいと考えています。今回のアンケートの一部をご紹介します。3 月末には学校関係者評価を経て、その結果をHPにて公開します。

「先生方がいつも明るく挨拶をしてくださり、担任でなくても子どもたちの名前を覚えてくださっているのは本当に感心致しております。そんな幼稚園の先生方の背中を見て日々の生活態度を学んで身につけているのだと思います。先生達の愛情を受けた子ども達は落ち着いて本当に素直に育ってくれていると思います。園長先生のお言葉に学びもあり前向きに子育てができた実感しております。『共に育てる』子どもだけでなく親も成長させてもらった 3 年間でした。ありがとうございました。」

「以前バス停のアンケートで、停留所でのヒヤッとした件をお伝えしたところ、その内容をヒヤリングしてくださり停留所の変更を行うという連絡を頂きました。たくさんある数の声を拾ってくださり迅速に対応してくださったことに感謝しております。子どもたちは先生方が大好きでとても信頼しているのがみとれるのですが、その姿を見て私も幸せな気持ちを感じています。いつもありがとうございます。」



本アンケートではご記名いただいています。ヒヤリング等を経て改善・充実を図るためです。

今年も、預かり保育における「一部給食」導入や「おやつ」の改善などを即実施しました。中にはすぐには実行できない事項もあります。例えば、「給食の完全実施」ですが、数年間検討を重ねた結果、本年度からの実現の運びとなり、皆様には大変喜んでいただいています。

いうまでもなく、子どもの最善の利益が最優先ですが、それと同様に、子育て支援も欠かせない条件です。「働いていても安心して預けられる幼稚園」というお声も届いており、大変嬉しく思っております。

「子どもとともに創る保育」

私ごとですが、これまで小学校算数教育において、子どもがどのように学習内容を理解していくのか、そのプロセスをメタ認知という認知心理学を取り入れながら研究してきました。教え込む指導法から、子どもの主体性に着目した指導に転換したとたん、子どもの声が聴こえ始め、「子どもとともに創る授業」に夢中になりました。

今、園では、子どもの声を聴くために、「振り返り」活動を設けて取り組んでいます。年少児から始めるので年長児になると、のびのびと自分の思いや気付きなどを表現するようになります。それらを活かしながら、柿の数、サツマイモの数、祭りの売り上げ(どんぐりの数)など、身の周りにある具体的な問題を解決しています。

ある教師は次のような振り返りをしていました。「子どもとともに創る保育」の楽しさに気付かされたようです。教師の成長も楽しみです。



数の研究に携わることができ、今までとは違う経験をすることができた。まだ数の概念があいまいな子どもたちに数え方を伝えると、次の数える場で子どもたちが活かしていて、経験が繋がっていることが実感できた。

子どもたちへの理解や発問など、私自身も学びの多い毎日であった。「どうしてそう思うのだろう?」「どの考えをしているのだろう?」疑問も増えた。子どもたちに聞いてみると、しっかり意見がある子どもと、感覚的にやっけて言葉では説明できない子どももいて、個々での違いを感じている。

三学期に企画している冬祭りも、子どもたちと楽しみながら、良い経験になるようにしたい。